

ふるさと講座・自然系第3回目のお知らせ！

オジロワシ・オオワシ観察会！

オジロワシ・オオワシを主に観察しますが、春の渡りの季節で、たくさんの鳥たちが観察できるとも欲張りな観察会です。ぜひ、ご参加ください。

- 日 時 平成27年3月22日（日）
午前9時～12時
- 場 所 風蓮湖・走古丹方面
- 講 師 別海町郷土研究会 会長 渡辺 昇 氏
- 集 合 郷土資料館へ9時までに集合
観察場所への移動は、当館で送迎しますが、
自家用車での移動もできます。
- 定 員 15名
(3月20日（金）までに電話・FAX・メールにて氏名・電話番号をご連絡ください。)
- 持 物 双眼鏡・図鑑（当館で若干貸出しします。）長靴を必ず着用ください。



シリーズ「近世の別海を探る 野付～その11」

シシャモシュブイ(竜神崎付近)

文献史料での表記は、「シシャモシュブイ」「シシヤムシュブイ」などがあります。幕府直轄時代 寛政11年(1799)～文政3年(1820)の文献史料からこの地名が登場します。

○地名の由来

●シシャモシュブイ

・「昔此处井戸有といふ 和人井戸」

『丙寅慶応二年正月吉日万覚帳安政六未年子モロ地名和解書』加賀伝蔵 安政6年(1859)

●シシャモシュフキ

・「和人井戸」

『北海道蝦夷語地名解』永田方生 明治24年(1891)

○シシャモシュブイの様子

松前藩復領時代 文政4年(1821)～安政元年(1854)

・「此处烽火場有る也。是よりクナシリ渡り所々逢
図をとる也」

『初航蝦夷日誌』松浦武四郎 弘化2年(1845)



「シシャモシュブイ」と思われる場所

・「クナシリ、合図之烽火場有」『村垣淡路守公務日記』安政元年(1854)

幕府再直轄時代 安政2年(1855)～慶応3年(1867)

・「烽火場有」『蝦夷行程記巻之下』阿部喜任纂述・松浦武四郎校訂 安政3年(1856)【83】

・「右はクナシリ嶋合図之烽火場に御座候」『根室旧貫誌』喜多野省吾 安政5年(1858)【63】

木巻(竜神崎灯台の手前)

文献史料での標記は、「木巻」「烽火台」「ニブ」などがあります。「シシャモシュブイ」に烽火台があったことから、同じ地点を意味すると思われます。

○地名の由来

●ニブ

・「烽火台をいふ・木の蔵」

『丙寅慶応二年正月吉日万覚帳安政六未年子モロ地名和解書』加賀伝蔵 安政6年(1859)【20】

『北海道蝦夷語地名解』永田方生 明治24年(1891)【1】

○木巻の様子

幕府再直轄時代 安政2年(1855)～慶応3年(1867)

・「キイマキの岬-夷船來舶の時クナシリと相互に火を焼き相図にする。」

『入北記』島義勇 安政4年(1857)【61】



「木巻」と思われる場所

リウンケ(竜神崎灯台付近の砂丘)

文献史料での標記は、「リウンケ」「レウンキ」「リュウキ」などがあります。幕府直轄時代 寛政11年(1799)～文政3年(1820)の文献史料からこの地名が登場します。

○地名の由来

●リュウキ

・「小高い 海岸」

『丙寅慶応二年正月吉日万覚帳安政六未年子モロ地名和解書』加賀伝蔵 安政6年(1859)【20】

○リウンケの様子

松前藩復領時代 文政4年(1821)～安政元年(1854)

・「是よりコイトイ迄凡二十丁斗。沖二州有て船路甚以難所なりしとかや…」

『初航蝦夷日誌』松浦武四郎 弘化2年(1845)【6】



「リウンケ」と思われる場所

別海町郷土資料館だより No.187

発行日 平成27年2月3日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

今月ご紹介した3つの地名は、国後島などへの烽火台が設置された場所です。この場所も12月の爆弾低気圧により海水の侵入により、土地が侵食されたようです。何十年、何百年経過すると土地の様子も変わり記録保存の重要性を改めて認識させられます。(K.I)